

美 術 科

美
術
科

美術科における言語活動

美術の創造活動と美術の基礎的な能力

「A表現」領域

発想や構想の能力、創造的な技能

「B鑑賞」領域

よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力

美術科における言語活動

「A表現」領域

自分の思いや考えを言葉で整理したり、どのように作っていくかアイデアスケッチで構想を練ったりするなどの学習活動

「B鑑賞」領域

自分の見方や感じ方を大切にして、作品から感じ取ったことを造形に関する言葉を用いて語ったり記述したりするなどの学習活動

言語活動を通して

美術科における 思考力・判断力・表現力

「A表現」領域

感じ取ったことや考えたことから主題を生み出し、主題などを基に表現の構想を練り、意図に応じて材料や用具、表現方法などを自由に工夫して表現する力

「B鑑賞」領域

よさや美しさなどを味わう・・・自分の見方や感じ方を大切にして、作品などの意味や価値を考え、それらを基に説明し合ったり、批評し合ったりする力

(共通事項) の視点を生かす

形や色彩、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情、対象のイメージなどを視点に

美術科の学習で育む能力

美術科は、「豊かな情操」を養うことを全ての生徒に実現するために、美術の創造活動を通して「美術を愛好する心情」や「感性」、「美術の基礎的な能力」を育成する教科である。「美術の基礎的な能力」とは豊かに発想や構想をし、創造的な技能を働かせてつくりだす表現の能力と、よさや美しさなどを感じ取り味わうなどの鑑賞の能力であり、これらには基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を含み、「生きる力」を育むための学力の重要な要素である。

美術科における思考力・判断力・表現力等

美術科における言語活動のねらいは、美術の基礎的な能力としての思考力・判断力・表現力等を育成することである。「A表現」領域では、特に発想や構想の能力であり、感じ取ったことや考えたことから主題を生み出し、主題などを基に表現の構想を練り、意図に応じて材料や用具、表現方法などを自由に工夫して表現する力として捉えている。「B鑑賞」領域では、鑑賞の能力が該当し、自分の見方や感じ方を大切にして、作品などの意味や価値を考え、それらを基に説明し合ったり、批評し合ったりする力として捉えている。このような思考力・判断力・表現力等を育成するために、言語活動の充実を図らねばならない。

美術科における言語活動の充実

言語活動の充実、つまり、言語活動の質を高めるためには次のことが必要であると考えます。

- ・言語活動を充実させる具体的な学習活動の観点から授業改善を試みる

「A表現」領域では、感じ取ったことや考えたことを言葉に置き換えたり、スケッチや言葉などを基にアイデアを練りながら制作したりすること、「B鑑賞」領域では、自分の見方や感じ方を基に表現意図を解釈し説明したり、作品に対する考え方を伝え合い、互いに深めていったりすることなどを言語活動の充実のための指導の観点として意図的に仕組んでいくことが必要であると考えます。

- ・〔共通事項〕の視点を生かす

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動の中で共通に働く資質や能力である。〔共通事項〕の視点を生かすことで、自然や美術作品などのよさや美しさ、自己の思いといった言葉では言い表しにくい「曖昧なもの」を形や色彩、材料などを視点に、それらがもたらす感情やイメージを関連付けて考え、記述したり説明し合ったりする中で「曖昧なもの」を浮かび上がらせることができる。また、根拠のある表現を生み出すことにもなると考える。

- ・学習形態の工夫

自分の中で思いや考えをまとめる場面、互いの思いや考えを伝え合う場面などにおいて、生徒にこの活動でどんな力を付けさせたいのか明確にした上で、個別学習やペア学習、グループ学習など効果的な学習形態を考えていく必要がある。

- ・言語活動の適切な評価（見取り）

生徒が言語活動を通して思考力・判断力・表現力を含む美術の基礎的な能力を付けてきているか、「言語」から思考の様相を見取り、「付けたい力」の高まりがみられない生徒に対して即時に手を差し伸べることが言語活動の質を高めることにつながると考える。そのためには、生徒がどのような表現をすれば十分であるのか判定する基準をもち、不十分であればどんな手を差し伸べるのか考えておく必要がある。

<参考・引用文献>

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省（平成20年9月）

言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】文部科学省（平成24年6月）

中等教育資料「中学校美術科における言語活動の充実」村上尚徳（平成20年8月）

同 「美術、工芸の学習を支える言語活動の働き」新関伸也（平成23年7月）

〔共通事項〕を視点に、思考力・判断力・表現力を育む授業づくり —美術科における思考力・判断力・表現力を育むための言語活動—

美術科は、創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化について理解を深め、豊かな情操を養うことを目標とする教科である。豊かな情操とは、美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求め続けようとする豊かな心の働きである。様々な創造活動を通して、表したいことを表すために思いを巡らせたり、よさや美しさなどを感じ取り味わったりするなど、思考力・判断力・表現力の高まりが豊かな情操を養う上で大切な要素になると考える。本校美術科では、この思考力・判断力・表現力を育むために有効な「言語活動の充実」について考えていきたい。

I 美術科の学習で育む力

美術科の学習は、生徒一人一人が、豊かに発想や構想し、創造的な技能を働かせたり、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わったりするなどの創造活動の過程を重視し、「何をさせるのか」ではなく、「何を育成するのか」ということを起点にした授業づくりが求められている。美術科とは、このような学習を積み重ねることによって、「生きる力」を育むための、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付け、形や色彩などによって自己や他者、社会とつながる創造的な体験の中で感性を豊かにし、自己の世界として意味付けをすることで自らの夢や可能性の世界を広げていくことから、豊かな情操を養うことを全ての生徒に実現することを目指した教科であり、これらの能力を育むことが美術科の目標である。

II 美術科における思考力・判断力・表現力 1 〔共通事項〕について

平成20年1月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申において、図画工作科、美術科、芸術科の改善の基本方針の中で、「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる」、「よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てる」と示された。美術の創造活動において、思考力・判断力・表現力等の育成が重視されているということである。

美術の創造活動は、表現活動と鑑賞活動とがある。現行の学習指導要領には美術科の内容として「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕から構成されると示された。「A表現」は、主体的に描いたりつくったりする表現の幅広い活動を通して、発想や構想の能力と、創造的な技能を育成する領域である。「B鑑賞」は、自分の見方や感じ方を大切にしながら主体的に造形的なよさや美しさなどを感じ取り味わう鑑賞の能力を育成する領域である。そして、〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習において、共通に必要な資質や能力であるとともに、美術における思考力・判断力・表現力を育む上で柱となる資質や能力でもある。二つの領域の指導を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情などに意識を向けて考えさせたり、対象のイメージを捉えさせたりすることで、「どんな形にすると楽しい感じがするだろうか」、「この作品から懐かしい感じがするのはなぜだろう」などの疑問を、形や色彩、材料などの要素とそれらがもたらす感情やイメージを関連付けて考え、根拠をもって表現することにつながる。また、美術のよさや美しさなどをより深く感じ取ることにもつながる。そのためには形や色彩、材料、光など、それぞれの要素に視点を当て、対象を構成する要素を整理し、そこから温かさや軟らかさ、安らぎなどの性質や感情を具体的に感じ取ったり、イメージしたりするため指導の手立てが必要となる。また、一つの題材の中で同じ〔共通事項〕を基にして、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情などに着目して鑑賞活動を行い、さらに、発想や構想をする表現活動を行うなど、〔共通事項〕を視点に表現と鑑賞の活動を関連させることにより、表現

や鑑賞の能力は効果的に育成される。

2 表現領域における思考力・判断力・表現力

先述の通り、「A表現」は、主体的に描いたりつくったりする表現の幅広い活動を通して、発想や構想の能力と、創造的な技能を育成する領域である。表現の能力を一層豊かに育成するために、「共通事項」を視点に形や色彩、材料などに対する感覚などを豊かに働かせながら、対象を見つめ、生徒一人一人が感じ取ったことや考えたことから主題を生み出したり（自己に関すること）、客観的な視点で目的や条件、機能と美の調和などを考えたりする（他者や社会に関すること）など発想し、それらを基に表現したい内容をどのように表すか構想を練り、意図に応じて材料や用具、表現方法などを自由に工夫して表現する過程を大切にする。このように表現の学習は、表したいことを基に、思考・判断・表現する創造的な課題解決の学習そのものであり、特に、発想や構想に関する項目が思考の中核をなしている。

なお、平成22年3月「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、「評価の観点である『思考・判断・表現』の『表現』は、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動等において思考・判断したことと、その内容を表現する活動とを一体的に評価することを示すものである」と示されている。そこから、美術科の表現領域における「表現力」とは、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、表現活動において発想・構想したことを、言語活動を通じて表す力としての「表現力」と、発想・構想したことを基に、創造的な技能を働かせてつくりだす、美術科本来の「表現力」があると考えられる。思考力・判断力・表現力を育むことで、主体的に創造活動に取り組む態度が養われるようにし、創造的な技能を働かせてつくりだそうとする美術科本来の「表現力」につなげていきたい。

3 鑑賞領域における思考力・判断力・表現力

「B鑑賞」は、感性や想像力を働かせて、自然の造形の美しさや、人類のみが成しうる「美の創造」という素晴らしさを感じ取り味わい、自らの人生や生活を潤し心豊かにしていく主体的で創造的な学習である。これは単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、知識などを活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、

自分の中に新しい価値をつくりだす学習である。鑑賞の学習の本質とは、自然や生活の中の造形、美術作品などから、自分の見方や感じ方を大切にし、自分の生き方との関わりの中で対象を見つめることによって感じ取り味わい、自分なりの意味や価値をつくりだす。そして、そう感じた理由や、形や色彩、材料などの要素を様々な角度から見つめ洞察的な思考を重ねたり、他者との言語活動を通して自分の見方や考え方を広げて追究したりすることによって、より幅広い生きた知識を身に付けるとともに、対象から美術や工芸そのものに対する感動と理解を一層深めることができるようになることである。このように、鑑賞の活動において自分の中に新しい価値をつくり出していくために、言語活動の充実を図る必要がある。まずは一人一人が対象と向き合い、自分なりの見方や感じ方をもち、その過程において説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動を行うことで、漠然とした感じ方が言語活動によって整理され、より自分の見方や感じ方を深めたり、他者の見方や感じ方から自分にはない見方や感じ方に気付くことにつながるのである。

II 美術科における言語活動

1 美術科における言語活動の意義

美術科では、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「共通事項」を柱に形や色彩、材料の感情効果やイメージなどを捉えながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして幅広く味わったりするなどの学習活動の中で適切に言語活動の充実を工夫する必要がある。

ところで、言語活動の充実を考えていく上で、美術科における「言語」について押さえておきたい。美術科における言語は、「文字や音声による言語」と、「形や色彩、イメージによる視覚言語」がある。後者においては、特に美術科の特質において、主要な要素として取り扱われてきた事柄であり、これまでも意識して学習を展開してきている。ただ、ここで大切なのは、「形や色彩、イメージによる視覚言語」と、「文字や音声による言語」の双方を関連させて考えていくことにある。自然や生活の中の造形、美術作品などは視覚的に感知されるものであり、「言葉では表しにくい」、「説明しきれない」ものであると認識されている。さらに、そのような認識の中、あえ

で言葉での説明を避けてきたというところもある。そのために、表現の活動では作品制作の意図が不明確、もしくは独りよがりなものに留まったり、鑑賞の活動では、思いや考えに根拠もなく独善的、もしくは感想自体もないという状況に陥ったりするなど、美術の学習が深まらないことがあったのではなかろうか。

「文字や音声による言語」化することで、「形や色彩、イメージによる視覚言語」という曖昧で抽象的なものを、誰もが共有できるものとして一般化することができる。いわば「可視化」することができる。形や色彩、イメージから成る美術の世界だからこそ、言葉で説明することにより、自己の表現をより明確にするとともに、他者に理解されるよう伝えることができる。したがって、言語活動を意識的に取り入れていくことにより、さらに美術科のねらいに迫ることができると思う。

ここで、「中学校学習指導要領解説 美術編」を基に、滋賀大学新関伸也氏によりまとめられた美術科における言語活動の意義について以下に示す。

美術科における言語活動の意義

- 言葉によって、形や色彩、材料などの造形を捉えるための視点が明確になり、また、新たな概念がもてること。
- 言葉によって、自分の感じ取ったことや、考えを整理し、明確化することができること。
- 言葉によって、他者と話し合ったり、説明し合ったりすることで学びを共有化し、自分の見方や感じ方を深めたり、広げたりすること。

以上の通り、表現や鑑賞の学習を充実させるために、言語活動の意義を意識して活動を取り入れていくことが必要である。

2 美術科における言語活動の充実

本校では、言語活動の充実とは、「授業実践において生徒が行う言語活動の質を高め、確実かつ効果的に生徒の学力を高めること」であると考えている。それでは、「言語活動の質を高める」とは、具体的にどうすればよいのだろうか。本校美術科では、以下のように考える。

(1) 言語活動を充実させる具体的な学習活動の観点から授業改善を試みる

美術科における言語活動を充実させる具体的な学習活動として、「言語活動の充実に関する指導事例集」を基に滋賀大学新関伸也氏がまとめられた表を次に示す。

※ () 内が美術科の言語活動を充実させる具体的な学習活動にあたる

言語活動を充実させる具体的な学習活動

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
(感じ取ったことや考えたことを言葉に置き換える)
- ② 事実を正確に理解し伝達する
(デザインなどにおいて図やサインなどの視覚言語に文字言語を加え事実を正確に伝える学習)
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする
(美的法則性のある表現方法を活用して作品制作したり、鑑賞において表現意図を解釈し説明したりする活動など)
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
(鑑賞において、自己の価値観に基づいて評価や批評する活動)
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
(スケッチや言葉などを基にアイデアを練りながら制作する。さらに完成した作品を鑑賞したり、自己評価したりする一連の活動)
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる
(共同制作や鑑賞などにおいて、作品に対する考え方を伝え合い、互いに深めていく活動)

以上のように、これらの学習活動を言語活動の充実のための指導の観点として意図的に仕組んでいくことで、思考力・判断力・表現力を含む美術の基礎的な能力を育む質の高い言語活動になると考える。

(2) [共通事項] の視点を生かす

前述の(1)の学習活動において基盤となるものが[共通事項]である。

自然や美術作品などからよさや美しさを感じ取り、そう感じた理由を相手に伝えたり、自分の思いや意図について説明したりするとき、きちんと相手に伝わるようにするために必要となってくるものが、共通の視点や言葉である。自然や美術作品などのよさや美しさ、自己の思

いといった言葉では言い表しにくい「曖昧なもの」を形や色彩、材料などを視点として捉え、それらがもたらす感情やイメージを関連付けて、「薄いトーンの配色で落ち着いた印象がする」や「丸みのある形で柔らかい感じ」などと共通の認識の言葉を使うことで、「曖昧なもの」を浮かび上がらせることができる。それは同時に根拠のある表現を生み出すことにもなる。生徒同士が互いの思いや考えを伝え合い、深め合うには〔共通事項〕の視点を生かすことで大きな効果を生むと考える。また、そこには生徒自身の見方や感じ方を大切にすることも重要になってくる。

(3) 学習形態の工夫

前述の(1)の学習活動において、適切な学習形態を工夫することも必要である。学習形態の例としては、個別学習やペア学習、グループ学習、一斉学習が考えられる。自分の中で思いや考えをまとめる場面、互いの思いや考えを伝え合う場面など、この活動でどんな力を付けさせたいのか明確にした上で、効果的な学習形態を考えていくべきである。また、教師は様々な学習形態で出てきた生徒の言葉を受け止め、生徒の思考を促す上で有効な言葉などを全体に広げることで、全ての生徒の学習活動の質を高めるよう指導していくことが必要であると考える。

(4) 言語活動の適切な評価(見取り)

言語活動の質を高める上で必要となることは、生徒が言語活動を通して思考力・判断力・表現力を含む美術の基礎的な能力を付けてきているか、「言語(表現物)」から思考の様相を見取り、「付けたい力」の高まりが見られない生徒に対して即時に手を差し伸べることでであると考える。そのためには、生徒の思考の様相を想定し、生徒がどのような表現をすれば十分であるのか判定する基準をもち、不十分であればどんな手を差し伸べるのか考えておく必要がある。

III 実践事例

【実践例①】

題材名 「上履きズックのスケッチ—○○なズック—」

【A表現(1),(3)】【B鑑賞(1)】(1年生)

次	主な学習内容	配時
1	○参考作品の鑑賞 ・教科書の作品や参考作品を鑑賞し、スケッチの種類や表し方について学ぶ。	1
2	○描くズックの発想・構想を練る ・どんなズックを描くか各自イメージをふくらませ、主題(オノマトペ)を設定する ・構図とそこから受ける印象について考える ・自分の主題を表現するためにオノマトペから感じられることと構図を関連付けてアイデアスケッチする ・グループで作品のイメージについて、構図の視点で相互鑑賞しアドバイスする ・もらったアドバイスを参考にアイデアを練る	2
3	○ズックのスケッチ ・イメージを大切にして構図を工夫してスケッチ(下絵)する ・いろいろな描画材料による表現方法について学ぶ ・自分の主題にあった描画材料を選択し、スケッチ(仕上げ)する	5
4	○相互鑑賞と自己評価 ・作品を構成している形や色、構図、描画材料から捉えたイメージなどを基に話し合う	1

1 指導上の工夫

(1) オノマトペと構図を関連付けた教材

「上履きズックのスケッチ—○○なズック—」の○○には、生徒が普段履いているズックから感じ取った生徒一人一人の思いやイメージが当てはまる。そして、本題材ではそういった思いやイメージをオノマトペで表わさせることにした。オノマトペとは擬音語・擬態語のことであるが、「フワフワ」とか「ズンズン」など、短い言葉の中に豊かなイメージが含まれている。ズックから感じ取った思いやイメージなど言葉にしにくいものをオノマトペで表すことで、生徒により分かりやすいイメージをもたせることができ、主題を生み出させやすくなると考えた。

また、主題のオノマトペをどのようにスケッチで表現するのか考えさせる上で、アイデアスケッチの段階では「構図」に焦点を当てた授業展開とした。構図は絵の印象や感じ方を大きく変える要素の一つである。画面の中

どのような大きさで、どのような角度で、どのような配置、入れ方をするのかなど、様々な点で変化を付けることで、そこから受ける印象や感じ方が変わってくる。授業では、様々な構図のズックの写真を提示し、それぞれがどんな印象や感じ方がするか考えさせた。主題であるオノマトペから感じられることと、様々な構図から受ける印象や感じ方を関連付けてアイデアを練ったり、グループでアドバイスし合ったりなど、主題をどのように表現するのか課題解決的に取り組んでいけるよう工夫することにより、目標や視点が明確になり、自分の考えをしっかりとって学習に取り組むことにつながった。

(2) 描画材料を選択して描くスケッチ

第3次のズックのスケッチでは、生徒が自由に描画材料を選択して描けるようにした。準備した描画材料は、鉛筆、炭画鉛筆、パステル、ダーマトグラフ、クレヨン、万年筆、ボールペン、ミリペン、サインペン、筆ペンである。それぞれの描画材料によって、線の太さやかすれ、描画材料の材質など様々な特徴がある。こういった材料がもつ特徴から生まれる印象や感じ方とオノマトペから感じられることを関連付け、自分の主題を表すのにふさわしい描画材料を選べるようにした。それぞれの描画材料の側には特徴が分かる描画材料のヒントカードを置くことで、生徒が描画材料を選ぶ際の参考になるようにした。また、自由に描画材料を試し描きする時間を設定したことで、実際に描いてそれぞれの描画材料の特徴や魅力に気付き、どの描画材料を使うことが主題に合うのか十分考えてスケッチに臨む生徒の姿がみられた。

〈提示した描画材料のヒントカード〉



2 本題材での言語活動の充実

この題材で充実させる言語活動

(丸数字の項目は「言語活動の充実に関する指導事例集」の言語活動を充実させる具体的な学習活動の項目に対応する)

①体験から感じ取ったことを表現する

：自分の上履きズックから感じ取った思いやイメージなどを文章やオノマトペで表す

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする

：画面の中にどのような大きさで、どのような角度で、どのような配置、入れ方をするのかなど、いろいろな構図の要素を活用して、工夫点を言葉でまとめたり、スケッチしたりする。

〈構図の工夫ワークシート〉

「〇〇がズック」の「〇〇」に当てはまる言葉を考えよう。～テーマを考える～
ズックを見て感じ取ったイメージをオノマトペで表そう！ オノマトペ…擬音語や擬態語

ぐんぐん、ぼろぼろ、ぱかりぱかり、すたすた、ぐさぐさ、ふんふん、べちゃべちゃ、コンコン、ポンポン、ツクツク、リンリン、フキフキ、(ゴドゴド)、かたかた、たんたん、とたたと、てんてん、ズリズリ、チクチク、ふかふか、しゅるしゅる、ヒューヒュー、ちくちく、(うるうる)、はるはる、スズン、チクチク、きんきん、きんきん、(カキカキ)、(カキカキ)、(カキカキ)、(カキカキ)、(カキカキ) など

テーマが決まったところで、画いたイメージを詳しく書いて下さい。

ドコドコ …ズックがあらく床や地面にあたっている感じ。そのために、ズックがよごれて、くたくたになっていく、つかれているズック。

↓

テーマ(オノマトペで表した自分のイメージ)をスケッチで表すために、ポイントに答えることは？

ズックの大きさ(大きい/小さい)、ズックを見る角度(高い位置/低い位置)、ズックの向き、ズックの置き方(どう置く? ずらす)、置き方による方向性、用紙の向き、構図、(明暗/色)等…

↓

テーマをスケッチで表すためにどんな工夫しますか?上のポイントを参考に書こう!

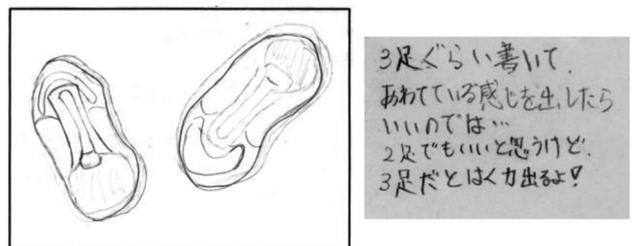
ドコドコではズックがよごれてくたくたになっていくものを描きたいから、足をばらばらに配置して横から見るように描きたいです。
くたくた

オノマトペから感じられることと、構図から受ける印象を関連付けてアイデアスケッチで工夫することをまとめている。

④情報を分析・評価し、論述する

：相互鑑賞の際、自分の価値意識をもって批評する。

〈アイデアスケッチとアドバイスカード〉



バタバタ(忙しく走り回っている感じ)

主題(オノマトペ)と構図の効果进行分析し、どう構図を変えれば主題と合致するか、自分の価値意識をもってアドバイスしている。

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
：オノマトペを基に構図や描画材料の印象を関連付けて、アイデアを練りながら制作する。

〈アドバイスを基にしたアイデアスケッチ〉

○ グループでの話し合いから工夫していくことをせよ。

1 自分のテーマ(オノマトペ)は?

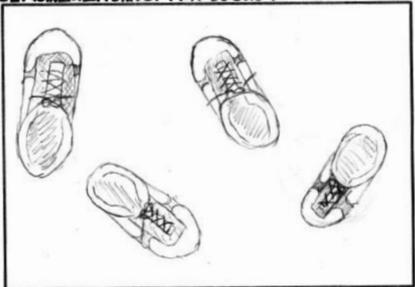
バラバラ

2 テーマを表すために工夫していくことをせよ(前回の話し合いも参考に)
既述を直すために、～(構図の工夫)をする

構図の工夫
あわてている感を出すために、クワの量を増やす。

その他の工夫
選んだ描画材料 鉛筆+炭画鉛筆
「なぜこの材料を選んだのか」
オノマトペのバラバラの感じが壊れるから。
また明確にするため

アイデアスケッチ(アイデアをまとめる)を描こう!
2で書いた構図の工夫を使ってアイデアをせよ☆



④のアイデアスケッチと同じ生徒である。友達のアドバイスから構想を練り直し、主題に合うよう構図や描画材料などを考えている。

⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを
発展させる

：作品に込めた思いを伝え合い、互いに深め合う。

〈作品(ズンズンなズック)と作者コメント〉



私はあわてて歩いている人のズックをイメージして描きました。大きく歩く感じを出すために、前の足と後ろ足を開きました。テーマがバラバラだったので、黒だけで描きました。黒だけで立体感を出すのは難しかったです。最後まであきらめずに作品を制作することができて、良かったです。また、まわりの茶色でくすませることで、よごれた感じを出したので、土足が少いように描きました。

3 成果と課題

①オノマトペを主題とした題材

前述の通り、オノマトペは短い言葉の中に豊かなイメージを含む言葉であり、誰もがイメージしやすいものである。しかし、それを形にしようとするのが難しいと感じるであろう。今回はそのオノマトペを表すために、構図や描画材料などという要素で形にしようとアプローチした。〔共通事項〕の視点で形や色、材料などとそれらがもたらす感情やイメージを関連付けてアイデアを言葉や絵にしたり、それらを視点にグループで話し合いアドバイスし合ったりしたことで、生徒は根拠をもって活動に取り組んでいったのではないかと考えられる。

②思考を促すワークシートの開発

自分の思いや考えをただ書かせるワークシートでは言語活動の充実にはならない。自分の感じたこと、考えたことを、形や色、材料など様々な要素(事実)を根拠に理由付けしていくことで、より価値のある表現になると考える。本題材を振り返ると、多くの生徒は確実に表現意図をもってスケッチをしている。しかし、なぜその構図なのか、なぜその描画材料を使うのか、理由付けの部分が弱く感じた。思考・判断の過程が見え、生徒が明確な考えをもって活動できるワークシートの開発が課題である。

③言語活動の充実のための適正な見取り

言語活動の質を高めていく上で、生徒の見取りは重要であり、しかし、見取りの判断基準が定まっているとは言いがたい。効果的な言語活動にするためには、それぞれの言語活動の評価規準を指導計画にきちんと位置付けることが肝要である。美術科の学習で育む力を生徒全員に確実に育成するために見取りの在り方を考えていくことが今後の課題である。

〈参考・引用文献〉

中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省 H20.9
言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】
文部科学省 H24.6
中等教育資料「中学校美術科における言語活動の充実」
村上尚徳 H20.8
同 「美術、工芸の学習を支える言語活動の働き」
新関伸也 H23.7
同 「学習指導の工夫改善に生かされ、生徒の学びに働く、学習評価の在り方(28)」東良雅人 H25.11
内外教育 「中学校美術科における授業づくりのポイント」
東良雅人 H25.11

